令和2年度「ひとり1改革運動」 11月推進月間改革賞受賞事例紹介

児童相談所一時保護児童の誤服薬防止対策

【中部健康福祉センター 一時保護課 一時保護班 】

カラーペンとマスキングテープを活用した誤薬防止策

中央児童相談所一時保護所（愛称：「こもれび」）では、一日あたり約11人の一時保護児童が在所しており、職員がシフト勤務により24時間体制で児童の対応をしています。

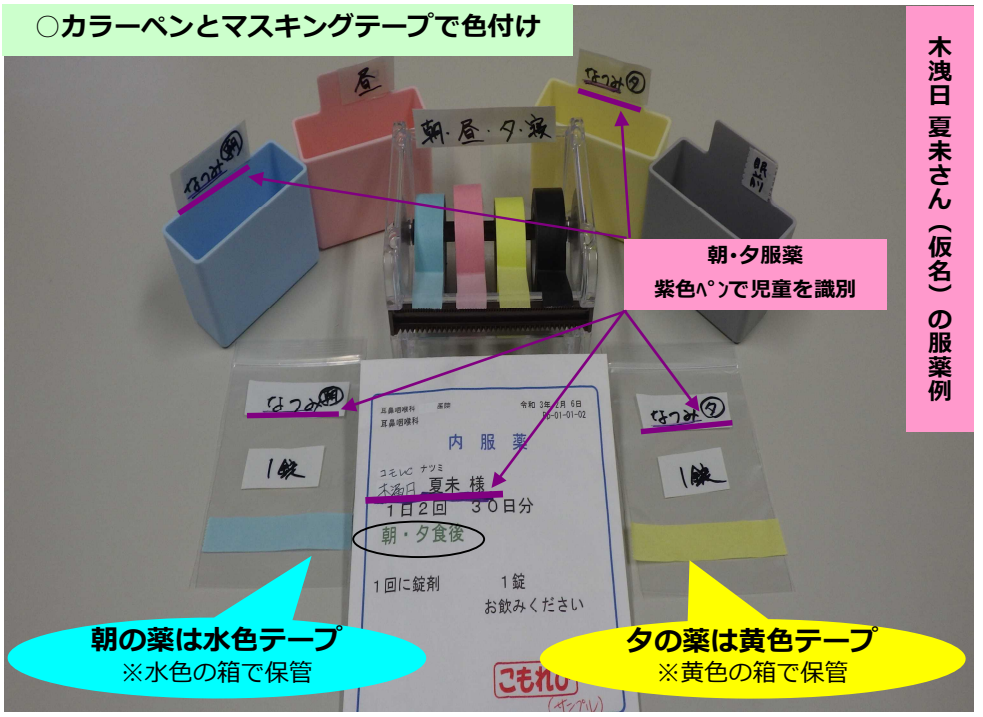
在所する児童の半数以上がカゼ薬やアレルギー薬等を服薬することがあったり、児童の入れ替わり（入退所）も頻繁であるため、児童への与薬の際は、誤薬がないよう細心の注意を払っています。

しかし、時間帯によっては少数の職員で児童の世話をしながら、児童への与薬を行う必要があり、誤薬の危険性もありました。

そこで、服薬する各児童の薬を管理する袋（当日分）に、それぞれカラーペンとマスキングテープで色付けし、与薬する児童と服薬時間を一目で区別できるようにしました。

これにより、視認性が向上したことで、職員だけでなく、児童も自身の薬の区別が可能となり、職員と児童の双方で確認が行えるため、誤薬の防止につながりました。

○カラーペンとマスキングテープで色付け



木洩日 夏未さん（仮名）の服薬例

【ＱＣサークル静岡地区　鈴木　顧問　から一言】

この改善のポイントは、職員と児童との間での投薬の情報共有化を、誰が見てもわかるような視覚（色）に訴えて行った点です。児童も自分の色を認識することができる為、万が一、誤投薬があった場合の確認にも役立ちます。

また、この色による管理を、マスキングテープによる服薬時間の管理にまで広げるなど、改善意識が高いことも伺えました。

ドローンを活用した砂防パトロールの効率化！

【下田土木事務所 維持管理課 管理班】

ドローンを活用して安全に砂防堰堤を点検

下田土木事務所管内では、渓流の土砂流出量を調整する砂防堰堤が約150基設置されており、年間約30基の点検を行っています。

点検は堰堤の状態を確認するだけでなく、堰堤の背後地に堆積した土砂の状況の確認も行っており、その際は職員が堰堤の天端に上り、確認をしていました。高さが約10～15mにもなる堰堤での現地点検は危険を伴い、転落した場合は命を落としてしまう恐れがあります。

そこで、ドローンによる空中撮影で、堰堤の背後地を含む状況確認を行うようにしました。

これにより、点検のために堰堤の天端に上る必要がなくなり、職員の安全が確保されました。また、上空からの撮影によって、目視では確認できない広範囲の状況が確認できるようになり、流域の危険箇所に対して早期に対応することが可能となりました。

【静岡大学　牛場　准教授　から一言】

近年、自然災害が頻発する中、インフラ整備において新技術の導入が課題となっています。本事例ではドローンを用いることで安全性の確保や広範囲の後背地への調査を可能にし、単なる業務の代替以上の新しい価値を生み出しています。また、今後の他部門での導入においても橋渡し役として期待できます。